

令和5年度（2023年度）第1回南大沢中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和5年（2023年）6月4日（日） 9：30～12：00
場 所	南大沢中学校 3階家庭科室
出席者	参加者：磯田、今泉、柿島、加笠、木村、久保田、高津、高橋、田中茂、廣瀬、廣田、福澤、吉村 由木地域事務所長：滝口 由木地域事務所：安齋 市民課：野田 高齢者あんしん相談センター南大沢：青山 はちまるサポート由木：土屋 経営計画課地域づくり担当：新納、伊東、三井、興梠、橋本、田中、松下、徳永、和田 （株）エックス都市研究所：田中、小市、松本、伊藤、堀岡
配布資料	第1回南大沢中学校区地域づくり推進会議資料 資料1-1 中間とりまとめ（修正案） 資料1-2 R4年度第6回の主な意見と中間とりまとめの修正・対応一覧 資料2 長房中学校区地域づくり推進計画（改訂版）（案） 資料3 ワークショップアイデアシート 資料4 南大沢中学校区地域づくり推進会議参加者 活動一覧 資料5 R5年度（2023年度）の地域づくり推進事業について 資料6 八王子未来デザイン2040に基づく地域づくりの推進について 資料7 アクションプランを考えよう（ワークシート・記載例） 資料8 ワークショップ検討資料 第6回南大沢中学校区地域づくり推進会議議事概要（案）

1 開会

経営計画課地域づくり担当より挨拶。

2 八王子未来デザイン2040に基づく地域づくりの推進について

資料6をもとに、経営計画課地域づくり担当より「八王子未来デザイン2040に基づく地域づくりの推進について」説明した。また、事前ワークで参加者よりご意見のあった「スマートシティ」及び「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」について説明した。説明概要は、以下のとおり。

（地域づくりの推進についての説明内容）

- ・市の人口は、市制施行時は約4万2千人だったが、現在は約58万人。2060年には約49万人に減少する見込み。人口減少・人口構造の変化だけでなく、社会情勢の変化に伴い、今後様々な課題が出てくると考えられる。
- ・市の財政についても人口推計の結果から歳入・歳出を予測すれば、収支が赤字になる予想。
- ・「八王子未来デザイン2040」では、「八王子ビジョン2022」の柱を継承しつつ、未来を拓く原動力として「地域自治」「共創」を掲げている。
- ・多様化する地域のライフスタイルや、複雑に絡み合う課題を踏まえ、従前からご協力いただいでい

る「地域づくり」を通じて「地域自治」を推進していきたいと考えている。市役所の仕組みや体制を整理し、2030年ごろまでに市内の全中学校区に推進会議を設置していく予定としている。

- ・地域でやりたいこととやらなければならないことがあると考えられる。市は公共サービスを担保しながら地域での取組が進められるよう対応していきたい。
- ・地域づくり推進計画策定後はアクションプランを実行しつつ、地域自治を推進するにはどのようなことが必要か、推進会議を設置した中学校区で検討していきたい。また、推進会議を通じて行政的な課題を共有し、地域の意見を聞く場としていきたいと考えている。

(スマートシティについて)

- ・東京都は「スマート東京」の実現に向け、南大沢を先行実施エリアとして位置づけ、東京都が主体となり「南大沢スマートシティ実施計画」を策定したところである。今後の取組を進めるにあたり、市から東京都に地元と対話する機会を設けてほしいと伝えているところである。
- ・計画には、モビリティ、商業賑わい、情報等のまちづくり施策の計画案、社会実装に向けたロードマップなどが示されている。

(南大沢駅周辺地区まちづくり方針の策定)

- ・アウトレットモールの底地は、東京都が所有権を持っており、事業用定期借地の契約が令和7年(2025年)に終了するため、今後の土地活用について検討を行っている。
- ・この地区の都市計画の状況としては、地区計画が指定されており、その区域には東京都立大学も含まれる。エリアとしては中郷公園から北側、都立大学の駅周辺の地域である。
- ・令和5年(2023年)3月に策定された方針は、学識経験者・行政からなる検討委員会で議論がなされ、南大沢駅前周辺の賑わい創出や、スマートシティの推進、コミュニティの活性化を方針の柱とし、実現化に向けた取組の方向性を示している。

(質疑)

なし

### 3 議題

#### (1) 「中間とりまとめ(修正案)の確認」

中間とりまとめの修正案を基に、将来ビジョンの検討と取組の候補について決定した。主な意見は、以下のとおり。

(取組の候補について)

- ・取組の候補については、「ミニツアーの実施」と「地域団体をつなぐイベントの実施」を合わせて「地域をつなぐイベントの実施」とし、「憩いの場づくり」、「地域情報ポータル作成」の3つにしてアクションプランを検討してはどうか。(エックス都市研究所)  
⇒その3つで良いと思う。

(将来ビジョンについて)

- ・緑、自然、などのキーワードを追加してはどうか。今の将来ビジョンだと、どこの地域でも当てはまる内容ではないか。
- ・南大沢は生活する場所であるため、「過ごす」では違和感がある。「生活」というニュアンスが入ると良いのではないか。  
⇒暮らしている人だけではなく、外から来た人も良いまちだと感じてもらえるまちに変わっていくと良い、という話ではなかったか。対象者は生活している人だけではなくもっと広いと思う。  
⇒生活する上で、みんなが集まることができるという意味で「集う」という言葉を入れてはどうか。
- ・「笑顔」というキーワードにひっかかりを覚えた。笑顔で過ごせない人もいるのではないか。南大沢にいてだけで孤独じゃない、ということがわかると良いと思う。  
⇒私はここにいていいんだ、という安心感があるまちだと良いと思うため、「アットホーム」というキーワードは良いと思う。
- ・「安心」というキーワードを入れると、「だれもが安心して集うまち南大沢」となるのか。(エックス都市研究所)  
⇒サブタイトルに「やさしい」が入っている。もっと大雑把でも良いのであれば、シンプルに「だれもが集えるまち南大沢」はどうか。  
⇒それもよい。一方で、少し物足りなさもある。  
⇒海外の方や子どもにもわかりやすいよう、短くても良いと思う。
- ・今回は「だれもが集えるまち南大沢―認め合うやさしいアットホームマイタウン―」とし、7/30のワークショップで意見をもらって、更新いくこととしてはどうか。(エックス都市研究所)  
⇒それで良い。

## (2) アクションプランの検討

アクションプランのとりまとめイメージについて市から説明し、決定した取組の候補ごとにグループ分けをし、アクションプランの検討を行った。市からの説明概要と、アクションプランの主な検討内容は、以下のとおり。

(市からの説明内容)

- ・中間とりまとめでまとめている「魅力と課題」は、川口中学校区地域づくり推進計画の10ページ「魅力と課題」の部分につながっていくイメージである。
- ・同地域づくり推進計画の中に、推進会議の役割として、地域のことだけでなく、市全体の課題についても検討する場であることを盛り込もうと考えている。川口中学校区や長房中学校区での改定作業のなかで、より良い方法などが見えてきたところである。
- ・アクションプランを行動に移しながら、随時内容も更新していけるよう、アクションプラン以降は別冊にした方が動きやすいと考えている。

(質疑)

- ・なぜ、長房中学校区と川口中学校区がモデル地区に選定されたのか。  
⇒市の喫緊の課題として、この2地区では学校の統廃合が挙げられたためである。(市)

## <検討結果>

### ① グループ1（地域をつなぐイベントの実施）

#### 1) アクションプランについて

- ・宮上で実施していた地域の高齢者から子どもまでが参加する総合文化祭がとても良いと思った。南大沢でもそれぞれのイベントをまとめて総合文化祭として実施出来ると良い。
- ・鎌水で週1回団地の集会所でお年寄りから子どもが集える“おかえり喫茶”をやっている。今年の春には5日間使って、“おかえり文化祭”を企画し、作ったものの展示会などを実施した。地域全体で作ったものや取組の発表の場として実施できたら良いと思う。
- ・月2回、南大沢中学校内で高齢者を対象にどんぐり分校をやっているが、対象を広げてできればもっと意味があるイベントになると思う。
- ・週1回シティハイツの集会所で“ぼまる場”という、おかえり喫茶のようなことをしている。7/17（海の日）にもイベントを企画しようと考えている。工作等を行っているのでそうしたことであれば協力できると思う。
- ・南大沢小学校では“子ども祭り”という各学年が出し物を出すイベントがあった。地域の高齢者の方にも参加してらえたら良いと思う。
- ・各団体が様々なイベントを実施しているが、一堂に会さないところが問題のように思う。
- ・南大沢地区全体で時間と場所を同じにしたイベントができたら良い。
- ・南大沢連絡協議会（6団地の集合体）で毎年夏祭りをやっているが、新型コロナウイルス感染症の影響により3年間中止していた。今年は7/29に大平公園の広場で実施する予定である。来年以降は多くの人に来てもらえるよう推進会議の取組と連携できるようにしたい。
- ・クリーンデーとミニツアーを組み合わせる。南大沢の魅力を再発掘できるように清水入り緑地などを2時間程度で回れば良いと思う。
- ・前回の話では、子どもたちがどこにどのような植物があるなどの情報を知っており、それを地図にし、子どもを主体としたミニツアーを開催するのはどうかという話があった。
- ・青少年対策地区委員会（以下「青少対」という）では月1回程度、中央大学の学生に協力してもらいタバコ拾い、パトロールをしている。みんなが知らないところを回るため、ミニツアーの役割を果たしていると思う。これも膨らませたら良いと思う。
- ・第4週の日曜夕方に連絡協議会から1団地ずつ出てきてもらい清掃活動をしている。清掃活動を通じて咲いている花を知ることができ、交流の場にもなる。
- ・青少対のクリーンデーと団地のクリーンデーは掃除する場所が、一部かぶっているところがあるため、同じ日に実施できると良いと思う。
- ・年間を通してイベントをリレー形式に進めていき、3年後には総合イベントを開催するというような方針を出したい。
- ・今後、今あるイベントをどのようにつないでいくか、第1段階から第3段階までの方針を書くイメージが良い。
- ・第1段階では、現在実施している既存のイベントを広げられるよう、集客する方法を検討する。
- ・集客の対象を子どもとするのであれば、青少対があるため声掛けしやすいが、高齢者団体は連合会がない。各地域の団体・組織をつなぐ仕組みを作りたい。
- ・高齢者は組織立ってはやりたがらないため、連合会を作るのは難しいかもしれない。
- ・青少対の活動情報が地域住民になかなか共有されていない。青少対に入っていない自治会もあるた

め、全体へ周知できる仕組みができると良いと思う。

- ・団体・組織をつなぐ仕組み作りは、地域情報ポータルを作成するグループに願います。
- ・どこにどのような団体があるかを調べて、知ることが第一段階。
- ・第2段階として、2年目で試行的に既存のイベントをベースにした取り組みを実施して、今後どのようなイベント同士のつながり可能性があるかを検討する。
- ・3、4年目には“総合文化祭”のような様々な団体が一堂に会する地域全体のイベントができれば良いと思う。
- ・総合文化祭のほか、通年イベントとし、各イベントでスタンプがもらえる通年のスタンプラリーを実施できると面白い。
- ・大規模なイベントとなれば、民間からの寄付、東京都立大学等の学生の参加も期待できるかもしれない。

## ② グループ2（憩いの場づくり）

### 1) アクションプラン1について

- ・新たに何かつくるといよりも、各団体同士の活動で対象が重なる部分などで、単発的もしくは継続的に連携できることがあれば良いと思う。
- ・グリーンメゾン南大沢3-13の集会場で月1回、高齢者向けのサロンを運営している。最初の10年は自主サロンであったが、その後市の登録団体として運営している。近隣エリアの方も利用できる。⇒最初の頃は子どもも来ていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で現在は高齢者が多い。イベントも企画している。
- ・居場所として新たに週1回、月曜日14:30~18:30「ぼまる場」という自由工作を通じた地域の方、子どもの居場所づくりを始めた。南大沢の色々な場所に居場所づくりができてきている気はしている。
- ・南大沢2丁目にあるリンナも居場所になっていると思う。
- ・推進会議のおかげで情報共有ができ、立ち寄れる場所が増えて、場所を提供する人同士が繋がってきている気がする。
- ・関係者はこの協議会に参加していないが、南大沢3丁目のカフェの方とリンナの方が繋がったりもしている。半分公的な居場所やお店として繋がれる場所が増えてきている。さらにそのような場所で日常的に繋がれるようになってきている気がする。
- ・今、南大沢中学校で月2回サロンをやっていて、多い時だと30人位参加者がいる。その他、余裕がある時はパソコンルームも使用でき、集まれる人が情報交換を行ったりしている。⇒規模が大きくなると体育館を使用して少し体を動かすことや、保健福祉センター、高齢者あんしん相談センターからスタッフに来てもらい、健康チェックなどを行っているので、放課後児童教室、学童とは別に子どもを対象に同じようなことができればと思っている。
- ・以前から情報が一か所に集約される場所が必要という話が出ている。どこでどんな団体が何をやっているかという情報を集約してマップなどで見える化していき、広報していけると良い。子どもや高齢者が曜日別に様々な施設を使えるよう空き施設を地域に貸してもらえると良い。
- ・少し話がずれるかもしれないが、遊歩道にベンチがあるがほとんど利用されていないのもったいない。クリーンデーの時に掃除するなどしてもよいのではないかと。そうすることで、現在、立ち話をしている人や高齢者の休憩場所、小学生が遊び、交流できるようになるのではないかと。各

公園の休息所も使われていなかったり、使えなくなっていたりして、もったいない。

- ・ベンチをフォトポイントにしても面白いと思う。
- ・今ある資源をあまりうまく使えていない。まずは資源である場所を知ってもらい、点在している居場所をマップなどで見える化できると良い。

## 2) アクションプラン2について

- ・点在している居場所の他に包括的な広い場所があるとすごく良いと思う。今は保育園の子どもは保育園と家の行き来、小学生は小学校と家、高齢者は高齢者の居場所と、完全に行動範囲が分断されているので、そこの壁を壊す場を作れないかと思っている。それが民間の場所だとハードルが高い。
- ・今、南大沢小学校は空き教室が多いので、うまく活用して、次年度小学校にあがる親子が小学校を身近に感じられたり、そこに行けば高齢者が子どもと触れ合えたりというイメージが湧くような公的な居場所づくりをしたいと思っている。
- ・多摩市は学校の統廃合が南大沢より早く、北貝取小学校を交流センターにするなどしている。南大沢も今後の統廃合に向けて、使用しなくなった学校をどう活用していくかを考えていく必要がある。校庭でグランピング、バーベキューなど、運営・管理は地域が行い、お金が生み出せるような仕組みづくりが必要。他には団地をまるごと施設にするなども跡地利用方法としては考えられるのではないか。
- ・小規模の学校だからこそ行きたいという子どももいると思う。また、今の学校の形を変えていくのも大切。南大沢小学校は子どもの人数が少ないので、その中に地域の人がどのようにかかわっているか、グランピングなど実証実験的にやってみて、実際に統廃合になったときに、どのように地域に施設開放していくか。今ある小規模校の活用から入っていきけると良い。
- ・南大沢小学校では防災キャンプはないが、防災訓練と授業は毎年やっている。
- ・統廃合で場所が余った際に、今までの各取組や場所を集約できるようなストーリーを描いていくことが重要。そのためにも活動実績を積み、つながりを作っていくことが重要。
- ・小規模校は、大規模校ではできないこともあるため、そのようなことをやっていくと良いと思う。
- ・学校運営協議会では学校と連携が取れている。図書室で読み聞かせや、登校時に校門に立つ、田植え体験等、地域の高齢者が様々な形で協力している。そうした取組も地域の方に知ってもらいたい。  
⇒以前から話題になっていた地域に眠っている特技を持つ地域の方の掘り起こしにつながると思う。

## 3) アクションプラン3について

- ・ボランティアで子ども食堂の手伝いをしている。小さい子どもと触れ合うのは楽しいが、運搬作業はかなり大変である。
- ・小さい子どもが自分の足で行ける距離に、居場所が点在している必要があると思う。団地単位で居場所があると安心である。  
⇒既存の子どもの居場所がどこにあるかわかると、他にどのあたりに必要かがわかると思う。(エックス都市研究所)
- ・子ども中心の居場所について、色々な地域で活動を広げていき、広い範囲で人が集まれる、繋ぐ拠点がこれからも必要である。

- ・子どもがいなくなると南大沢の未来もなくなるということから、子どもというキーワードは絶対に外してはいけない。子どもの居場所づくりが大人の居場所づくりにもつながる。

### ③ グループ3（地域情報ポータル作成）

#### 1) アクションプラン1について

- ・ローカルサイト「由木マルシェ（地域情報メディア）」を製作し、無償で運用している。地域の飲食店の情報をはじめ、南大沢のイベントや防災、南大沢警察署からの防犯に関する情報、アウトレットの情報を不定期に発信している。
- ・実際にローカルサイトを運営する上で、大変なこととして、地域に多様な団体が多く、情報がまとまっていないことである。自分たちがやりたいことをやりたいように進めたい人が多いため、団体が個々に情報発信をするといった状況になっているのだが、一つのポータルサイトを介して各団体が自分たちで載せたい情報を掲載できるようなシステムがあると良いと思う。媒体については一緒に検討していけると良いと思う。
- ・ポータルサイトを1人が運営管理するのは限界があるため、情報を発信したい人が自らできるようになると良い。
- ・自分たちが運用しているSNSに紐づくと同時に、ポータルサイトにも情報が載ると良いのではないかな。
- ・由木マルシェの運営にはシステムをつくるエンジニアがおり、専属のライターが執筆することもある。
- ・地域情報ポータルの作成と運用にあたり、大枠としてどのように情報を発信するか検討が必要だろう。
- ・由木マルシェは個人の事業であるため、別で運用できると良いと思う。  
⇒各団体の情報を集約する場所をネット上に作り、それぞれの団体が情報を入れていくというイメージか。  
⇒そうである。
- ・八王子市が推進会議から派生した実行委員会等に対して権限を与えて取組を実行するという説明があったが、そうなれば資金面は課題になるだろう。資金がなければ運用できなくなってしまうと思うが、利益を求めて情報発信するのには考える必要があるだろう。例えば情報掲載費用を集める場合は、その費用をまちのために使うことが考えられる。
- ・集めた資金の管理の問題があるため、地域の金融機関に協力してもらうのも良いと思う。南大沢の将来ビジョンで「誰もが集えて」という意見があり、それを考えると、企業なども含まれると思う。
- ・クラウドファンディングもあるだろう。ミニツアーなどイベントの実施については、お金がないとできないこともある。お金があると人も集めやすくなるかもしれない。人が集まればお金が集まるのかもしれない。
- ・大きな企業にお金を出してほしい。お金を出すメリットを伝えていくことも必要だろう。
- ・2040年のビジョンについて、現状維持か発展かわからないが、発展を考えるのであれば、参加する人たちが増加すると良いと思うため、まじめに考えていきたい。地域情報ポータル作成チームだけが考えることではないともいえる。
- ・ボランティアで市民にかなりスケールが大きなことを行政は望んでいそうだが、モデル地区ではどのような取り組みをしていたのか。

⇒長房中学校区では地域情報を発信するため、推進会議の取組をまとめた動画をコピー長房のデジタルサイネージで上映している。(市)

- ・アクション1では、情報発信の媒体やどのような情報を発信するか等、仕組みについて考える。媒体についてはS Eの仕事の領域になるため、参加者のなかに詳しい方がいるのではないかな。

## 2) アクションプラン2について

- ・情報発信を行う上で、企業の協力が必要だろう。イトーヨーカドーの中で広報してもらうなどもあるだろう。利害関係者の巻き込みも必要であるため、アウトレットなど、企業とのつながりを可視化できると良いかもしれない。

## 3) アクションプラン3について

- ・情報発信のマンパワーは十分ではないため、情報発信ができる人の育成ができる方が良いのではないかな。
- ・顔を出して動画に出たくない人もいるが、ユーチューバーなど顔を出して、まちの売り込みを行う人もいる。
- ・ある島では、人数が少ない中学校で、島の魅力発信のために、中学生が自分たちで企業の強みや良さについてヒアリングして情報発信している事例もある。
- ・地域づくり推進会議では情報発信を担う人へのサポートができるのではないかな。
- ・芸能の世界に行きたい子、また中学生だけでなく、小学生や幼稚園生、その親子、大学生などが情報発信の担い手になり得るかもしれない。どのような人を育てるのかなどを検討してはどうか。

市からの説明)

推進会議は取組をメインとした団体ではなく、それぞれの所属団体をつなぎ、連携、情報共有する場ということ、また、市の課題を検討する場ということを改めて認識していただきたい。活動するための資金の話もモデル地区を含めて推進会議の場で検討していく。



### 3 議題「ワークショップの検討」

会議資料をもとに、ワークショップの進め方について確認した。結果は、以下のとおり。

#### (1) ワークショップの概要

- ・開催日時は 2023 年 7 月 30 日（日）10 時～12 時、場所は南大沢市民センター体育室で行う。
- ・中間とりまとめを基に、地域の課題や魅力の追加、将来ビジョンに関する地域の方々の思い、アクションプランの検討内容について、参加者から意見をいただくことを目的としている。
- ・全体の流れは、開会挨拶、市から趣旨説明、その後、推進会議の説明を推進会議のメンバーにしてもらい、ワークショップに移る。ワークショップは 50 分程度とし、参加人数を 30～40 名、4～6 テーブルを囲むことを想定している。推進会議のメンバーには各テーブルに入ってもらい、ファシリテーターをしてもらう。意見交換終了後、20 分程度でファシリテーターが各テーブルの内容を発表、情報共有などをして閉会とする。
- ・50 分の中で意見交換できるような進め方を検討し、必要な資料を 6 月末までに市を經由して推進会議メンバーに送付する。

#### (2) 出席者の役割分担

- ・ファシリテーターと板書係が各テーブルに必要なため、最低でも 8 名の方に参加していただく必要がある。（エックス都市研究所）
- ・本日の参加者のうち、当日の欠席される方と説明役、進行役を除くと 8 名しかいないため、当日参加できる方全員に、役割をお願いしたい。なお役割については、後日、個別に調整させていただく。
- ・久保田は予定があるためワークショップ欠席予定、柿島は仕事次第のため、参加できるかわからない。
- ・ワークショップ当日は、大平公園の夏祭りの予備日となっており、夏祭り開催日と重なる場合は、夏祭り主催者側の今泉氏と田中氏は、ワークショップには参加できない。（市）

#### (3) 声掛けについて

- ・小中校生、大学生、高齢者団体などの方々には、推進会議のメンバーからお声掛けしてもらう。後日、市から必要部数のチラシを推進会議メンバーに 20 部送付する。また、小中学校へは市から広報する。（市）
- ・周辺に高校がなく高校生への声掛けが難しい。中学校卒業生の学年 LINE でチラシをながしてもらうよう、中高校生へは廣田氏、大学生へは高橋氏に声掛けをお願いしたい。（市）
- ・高齢者団体へのチラシは、磯田氏、木村氏をお願いしたい。（市）
- ・団地の掲示板には掲示しないのか。  
⇒期限もあるので調整する（市）
- ・市では、6 月 1 日号の広報と、市 HP で情報を公開している。申し込み方法は、直接来ていただくか、郵送、電子メール、FAX である。（地域づくり担当）
- ・参加者の申し込み締め切りは 6 月 20 日のため、それ以降に参加人数が確定する。（市）  
⇒締め切りはもう少し遅くした方が、参加しやすいのではないか。  
⇒締め切りはみなみ野に合わせて設定しているが、南大沢は 4 週間遅く、変更は可能であるため、7 月 10 日にする。（市）

#### 4 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・毎週月曜日の放課後にシティハイツ南大沢の集会所で、“ぼまる場”という子どもの居場所づくりを始めた。工作が得意なスタッフとともに画材などを集会所に持ち込み、子どもたちが自己表現しながら安心してすごせる居場所づくりを目指している。子どもたちが自分で握ったおにぎりや、野菜を切って作った味噌汁をみんなで食べることもある。食生活に不安がある家庭や、夜遅くまで1人で過ごすような子どもが安心できる場所にしたい。SNSで様子を発信しており、開放時間であればいつでも見学できる。HPで必要物資を募っているので、何かあればご協力してほしい。
- ・高齢者あんしん相談センターは高齢者の相談窓口ではあるが、地域のコミュニティづくりを目的として、高齢者だけでなく多世代が交流できる場所やイベントを企画・実施している。広報誌の裏面に、地域づくりの活動内容を掲載している。（高齢者あんしん相談センター）
- ・3年ぶりに大平公園で夏祭りを行う。これまでは、企業にお願いしていた寄付が今年はあまり期待できないため、協力ができそうなところは教えてほしい。お店を出して賑わいを作ることになったため、出店依頼も受け付けている。

#### 5 閉会

次回の推進会議の日程等の確認を行った。

- ・次回の推進会議は、9月9日（土）9：30～12：00を予定している。（市）
- ・ワークショップのチラシは6月9日ごろに、市から推進会議メンバーに送付する。（市）

以上

### 魅力

- ・自然環境が豊かでみどりが多い。
- ・四季折々の自然景観を楽しむことができる。
- ・公園や広場が随所にある。
- ・南大沢駅周辺が遊歩道でつながり、街中は歩車分離がなされて安全で快適に歩くことができる。
- ・起伏のある地形により、散歩コースの選択肢が豊富にある。
- ・交通アクセスが良い。
- ・近場で買い物が進められ、利便性が高い。
- ・個別の地域活動が盛んで活動メニューが豊富にある。
- ・スマートシティの取組など、先進的な取組が行われている。

### 課題

- (ア) 地域全体をまとめる組織がない
  - ・地域で活動する組織は多いが、地域全体をまとめる組織がないため、住民・団体や行政などの架け橋となる組織やコミュニティが必要。
  - ・住民参加型で地域の方向性を決める仕組みが必要。
- (イ) 担い手の不足
  - ・自主性のある若手地域人材の育成が必要。
  - ・現役をリタイアした豊富な知識・経験を持つ地域人材の確保が必要。
  - ・大学・企業などとの連携が必要。
- (ウ) つながる機会・場の不足
  - ・少子化等の影響により、子ども会の解散や自治会のスポーツ大会がなくなったほか、新型コロナウイルスの影響により縮小・中止された、地域のイベントや祭りなどを再開し、つながるきっかけにする。
  - ・災害などの有事の際や、閉じこもりなどの地域からの孤立を防ぐため、子どもから高齢者までがつながれる機会が必要。
  - ・地域資源を活用し、気軽に集まれる場所の確保が必要。
  - ・リアルとDXを活用し、だれもがつながることができる場所が必要。
- (エ) つながる意識の不足
  - ・地域活動等に参加したくない人のことも尊重しつつ、つながることの重要性について意識づけが必要。
- (オ) 地域情報共有の不足
  - ・団体の活動情報など、地域情報を集約するところが必要。
  - ・年代や国籍などの属性に応じた、情報共有手段の検討が必要。

## だれもが集えるまち 南大沢

～認め合うやさしいアットホームマイタウン～

#### ① 地域ぐるみの体制づくり

・地域づくり推進会議において、地域の様々な住民・団体が連携できる体制づくりを目指します。

#### ② みんながつながる機会・場づくり

・地域で活躍する住民・団体がそれぞれの役割や活動を知る、きっかけづくりに取り組みます。  
・多彩な地域活動を活かし、誰もが楽しめ、誰でも受け入れる交流の機会・場づくりに取り組みます。

#### ③ 地域の魅力になる人材の発掘・育成

・地域に眠る人材を発掘します。  
・地域活動に参加し、活動の楽しさを感じてもらうことで、地域の魅力を受け継ぐ人を育成します。

#### ④ 地域の魅力になる資源の活用

・地域の公共施設などの資源をつながる場として活用します。  
・地域の大学・企業、商店街などと連携し、地域の魅力を高めていきます。

### 取組の候補

#### ○ミニツアーの実施

- ・地域カルテを活用した、散策ツアー
- ・地域組織活動の体験ツアー（自然観察、清掃活動、防災訓練 etc.）
- ・地域資源を知る機会（自然、人、活動）

#### ① 地域をつなぐイベントの実施

#### ○地域団体をつなぐイベントの実施

- ・個々の地域イベントを連携
- ・多様な住民の外出、ふれあいのきっかけづくり
- ・住民が持つ多彩なノウハウを発揮する場

#### ② ○憩いの場づくり

- ・多世代が気軽に憩える場づくり（テーブル、ベンチ etc.）
- ・既存の公共施設、遊歩道、店先、空き部屋等の有効活用
- ・小さなもてなし（カフェ、ストリートピアノなど）

#### ③ ○地域情報ポータルサイトの作成

- ・イベント、防災・防犯、住民の声、地域人材など、様々な地域情報の集約化、情報発信
- ・ホームページ、SNS、地域カルテなどの活用

（仮案）だれもが笑顔に過ごすまち 南大沢

～認め合うやさしいアットホームマイタウン～

生活者・過ごす

みどり・自然

外国人・子どもにもわかりやすく

共通テーマ

カーボンニュートラル

地域防災

公共施設マネジメント

### 検討の視点

DX

グループ

1  
番号

メンバー  
☆:リーダー

☆田中茂

加笠

高津

今泉

吉村

検討を深めるアクション

アクション1

(仮) タイトル

南大沢文化祭

概要

通年  
イベント

様々な  
イベントを  
連携

発表の場を  
作る

7/29  
夏祭り  
@大平公園

鑑水  
おかえり喫茶

どんぐり  
分校  
(中学校内)

必要な検討、活動など

やっている  
ことが  
なかなか共  
有できない

アクション2

(仮) タイトル

青小対のクリ  
ンデーと団  
地のクリーン  
デーを一緒に



概要

ミニツアー

子どもたちが  
知っている  
こと  
⇒マップ

子どもが博士  
になるツアー

必要な検討、活動など

アクション3

(仮) タイトル

こども  
まつり

概要

ラジオ  
体操

子どもまつり  
を全世代で

必要な検討、活動など

既存のイベント例

グループ1

第一

1年目

既存のイベントに

多くの人、組織にかかわってもらう・つなぐ



知ること

連絡会議的なもの

→仕組みづくり

(理想)

情報発信は③グループ

組織の活動が

見える、つたわるように

例) クリーンデー→南大沢全体へ

- ・ミニツアー
- ・スタンプラリー
- ・カフェ
- ・駄菓子バザー
- ・体験工作
- ・文化祭(地区のもの)
- ・高齢者の健康促進イベント
- ・ミニコンサート

年間を通じた

スタンプラリー

(すべてのイベントをめぐる)

第二

2年目



実施⇒試行的

どうしたらつながりのすそのを  
広げられるか

目標

全世代が集まれる

時間・場所をつくる

第三

3年目?



総合文化祭

+

大まつり

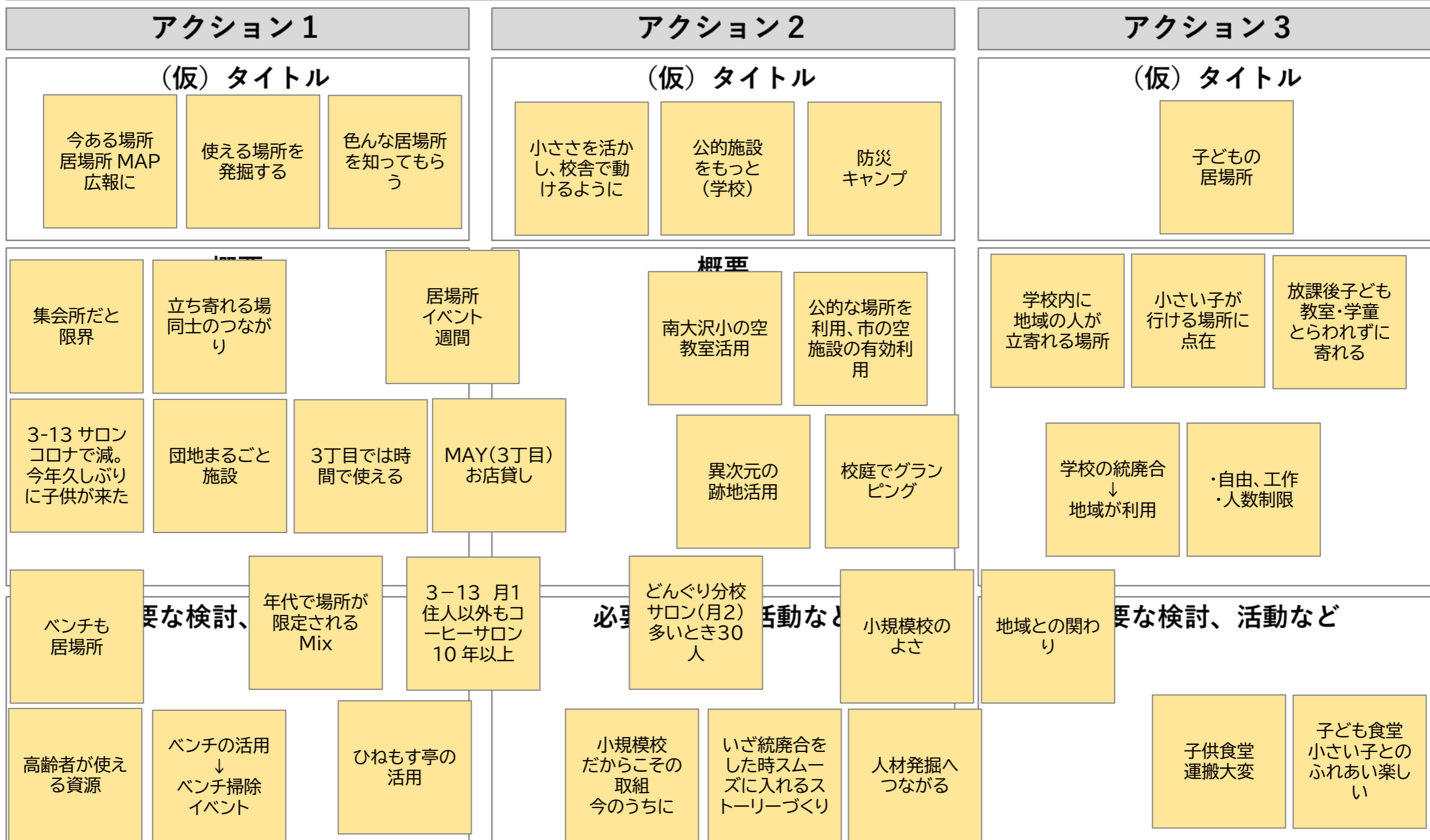
- ・民間からの寄付
- ・学生の参加

ワークシート アクションプランを考えよう

資料7

グループ	2 番号	メンバー ☆:リーダー	☆木村	広田	久保田	高橋 今日子
------	---------	----------------	-----	----	-----	-----------

検討を深めるアクション



# ワークシート アクションプランを考えよう

推進会議メンバーの活動・行動

グループ

3  
番号

メンバー  
☆:リーダー

☆飯田?

☆柿島

廣瀬

磯田

福澤

## 検討を深めるアクション

### アクション1

(仮) タイトル

仕組みづくり

地域情報ポータルサイト

プラットフォーム

⇒地域団体をつなぐサイトへ

団体のSNSをまとめるポータル

由木マルシェとは別

情報発信⇒誰でもできる

課題:それぞれがSNSを使用していて情報整理できない

どう情報を集めるか?

どう発信するか?

どの媒体?

発信するお金をもらいまちに使う

### アクション2

(仮) タイトル

つながる

概要

利害関係者のマッピング

企業

### 必要な検討、活動など

資金

企業の取り込み

地域の金融機関に協力してもらう?

多摩信

個人からの寄付?

クラウドファンディング

イベントで参加費?

### アクション3

(仮) タイトル

育てる  
インフルエンサーを育てる

概要

魅力を発信

子どもの夢をサポート

中学生

### 必要な検討、活動など

子供たちが自分たちで

親子大学生

YouTube 授業に組み込める?